

図書館だより



2019年12月2日発行



今年もあっという間に12月となりました。平成から令和に元号が変わった2019年はどんな1年になったでしょうか。自分が目標としていたことは達成に近づいていますか。あとまだ1か月ありますから、今年の自分をよく頑張ったと褒めて新しい年を迎えられるように、やり残しはなるべく減らしておきたいものですね。また、みなさんにはまだこれから期末考査も控えていますから、寒さで体調を崩さないように気をつけてください。

さて、秋草では先週イルミネーション点灯式が行われました。生徒会のみなさんが頑張って設営してくれたイルミネーションは、とても綺麗で通るたびに気持ちを明るくしてくれます。この季節は街のあちこちに光の装飾がなされていて、幻想的な景色を楽しむことができます。寒さに負けず、イルミネーション巡りに出かけてみてはいかがでしょうか。

今年の思い出が詰まった写真でハンドメイド雑貨を作ってみよう

740-セ『かわいい写真でつくる手紙と雑貨』 成美堂出版

みなさんはこの1年で、友だちや家族と撮った写真、綺麗な景色を撮った写真、おいしい料理やスイーツを撮った写真など、思い出のシーンを撮りためることができたでしょうか。そのまま写真を眺めるのもいいですが、思い出の一枚で可愛い雑貨を作ってみませんか。しおりやカレンダー、メッセージカードなどの他に、プラバンアクセサリーやトートバッグ、箸置きなど、プリントする用紙の素材を変えることで色々な雑貨を作ることができます。自分用にも贈り物用にも使えるアイテムがたくさん載っています。本を見ながら友だち同士でお揃いのものを作ってみるのもいいですね。

お家にいながらイルミネーション巡り

748-グ『世界のきらめくイルミネーション』 グラフィック社

日本、アジア、ヨーロッパの美しいイルミネーションが集められた写真集。光が造り出す絶景は、ひとつひとつがとても魅力的です。色とりどりの光で賑やかに彩られた景色は心を弾ませてくれるし、落ち着いた色合いで綺麗に染まった景色は心を清らかにしてくれます。埼玉県からは奥秩父の冬の名勝『三十槌の氷柱(みそつちのつらら)』のライトアップが紹介されていますが、こちらも幻想的で惚れ惚れするような景色です。光のあたたかさが本から伝わってくるのを感じながら、楽しんで読んでみてください。

2019年これを読まなきゃ終われない！！

平成最後の本屋大賞に選ばれた瀬尾まいこさんの『そして、バトンは渡された』、令和初の芥川賞・直木賞にそれぞれ選ばれた今村夏子さんの『むらさきのスカートの女』と大島真寿美さんの『渦 妹背山婦女庭訓魂結び』、上半期ベストセラーの1位には樹木希林さんの『一切なりゆき』が選ばれるなど、今年も女性作家の活躍が目覚ましい年でした。男性作家では、古市憲寿さんや又吉直樹さんの新刊が注目されていました。また、令和の出典先となった『万葉集』関連の本も多く出版された1年でしたね。みなさんの2019年ベスト本はどんな本だったでしょうか。残り1か月も読書を楽しんでください。

913.6-イ『ノーサイド・ゲーム』 池井戸潤 || 著 ダイヤモンド社

2019年は、ラグビーワールドカップで日本中が湧き立った年でしたね。ラグビーファンとしてデビューした人もきっと少なくないはず。そんな人たちにおすすめしたいのがこの小説。弱小チームが優勝を目指す熱血ものの要素もありつつ、テーマとなっているのは、社会人ラグビーチームの再建です。社会人ラグビーチームを抱える企業の視点で、ラグビー界の厳しい内情が描かれています。選手として戦う人、チームと選手のために戦う人、両者のラグビーに対する熱い思いが本から伝わってきて、ワールドカップを観ていた時のような興奮と感動を味わえます。

953-ユ『三つ編み』 レティシア・コロバン || 著 早川書房

この物語には3人の主人公がいます。インドに暮らすスミタ、イタリアに暮らすジュリア、カナダに暮らすサラ。生まれた国も、年齢も、生き方も、暮らし方も異なる3人の女性の人生が交互に語られます。彼女たちはそれぞれが厳しい現実と戦いながら、生きています。理不尽に差別され、突然の不幸に戸惑い、裏切りに絶望する様子は読んでいただけで胸が痛くなりますが、3人はあきらめません。最悪の状況でも道を切り開き、進もうとする力強い姿に勇気をもらいます。最後まで読んで、彼女たちを結びつける“あるもの”に気がついた時、この物語が一段と素晴らしく感じられます。

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

浮気する期間もありましたが、高校生の頃から細く長くお世話になっている美容師さんがいます。ただ、いまだに私の趣味をつかみかねているらしく、並べてくれる雑誌は様々なジャンルから1冊ずつ。きっと苦慮しているのでしょう。そんな美容師さんが先日、とてもうれしそうに振ってくれた話題は映画の撮影でした。美容室隣の民家で、一昨日からつい先ほどまで撮影されていたそうです。駅近で車も人もよく通る道沿いですが、撮影の度にそれぞれを止める難事業だったそうです。美容師さんは早速その原作本をネットで注文したとの事。『おらおらでひとりいぐも』(913.6-7 若竹千佐子 || 著 河出書房新社) 買ってみたいものの普段から本を読まないの、読めないかもとの弱音がこぼれます。確かに東北弁の文章から始まるので、ちょっとまごつくかもしれません。でも読み始めれば引き込まれてしまうはず。今度はこの本の感想をおしゃべりしましょうと約束をしてみました。その時を楽しみに、私も早速読み返しました。【鈴木】

★先生がプロデュース!! 今月の展示★

今月の展示は…、**国語科 迫先生** がプロデュースです◎

展示のテーマは…、【 **アメリカ、または自由について** 】

デュークエリントン、ディズニー、スピルバーグ、ビヨンセ、マイリーサイラス、ケンドリックラマー、ビリーアイリッシュといった強烈なアーティストを生んできた国、アメリカ。Issa がドリームの見方をインスパイアされたように、私も幼少から音楽や映像作品など、それと知らず「アメリカ的なもの」にたくさん触れて育ちました。

今回は自分が色々な意味で「アメリカらしい」と思う読み物を選んでみましたが、するとやはり「自由」を考えるヒントになりそうな作品が多くなりました。驚いたり共感したりしながら、束の間かの国に浸ってみてください。

◆展示本リスト◆

- 295-ア 『アメリカ50州を読む地図』 浅井 信雄 || 著 新潮社
- 933-カ 『あるクリスマス』 トールマン・カポーティ || 著 村上 春樹 || 訳 文藝春秋
- 914.6-チ 『アメリカ紀行』 千葉 雅也 || 著 文藝春秋
- …若手哲学者がアメリカ滞在中に感じたことを丁寧かつざっくばらんに綴る。写真も素敵。
- 934-シ 『あなたを選んでくれるもの』 ミランダ・ジュライ || 著 岸本佐知子 || 訳 新潮社
- 316-ハ 『プレイボーイインタビューズ』 アレックス・ヘイリー／マレー・フィッシャー || 著 住友 進 || 訳 中央アート出版社
- 933-ヴ 『スローターハウス5』 カート・ヴォネガット・ジュニア || 著 伊藤 典夫 || 訳 早川書房
- 933-キ 『ゴールデンボーイ 恐怖の四季 春夏編』 スティーヴン・キング || 著 浅倉 久志 || 訳 新潮社
- …映画「ショーシャンクの空に」の原作を収録。読めば「ホラーの帝王」の先入観が変わるはず。
- 934-オ 『ナショナル・ストーリー・プロジェクト I・II』 ポール・オースター || 編 柴田 元幸 || 訳 新潮社
- …作家オースターがラジオ視聴者から印象深い話を募る。本当に印象深い話ばかり。
- 933-ロ 『ハウスキーピング』 マリリン・ロビンソン || 著 篠森ゆりこ || 訳 河出書房新社
- 933-サ 『キャッチャー・イン・ザ・ライ』 J. D. サリンジャー || 著 村上 春樹 || 訳 白泉社

この中でも、いちおしなのは…



316-ハ 『プレイボーイインタビューズ』 アレックス・ヘイリー／マレー・フィッシャー || 著 中央アート出版社

悪名高い(?)雑誌の企画ですが、このインタビューは本当にアメリカの一時代を見事に切り取っていると思います。キング牧師、マルコム X などの錚々たる面々が、優れたインタビュアーの力で比較的リラックスしながら真情を語っていて、単なる「歴史上の人物」でなくリアルな人間として身近に感じられます。個人的には弁護士メルヴィン・ベリーの回が好きです。

本で振り返る平成の30年

今回は平成16年(2004年)から時代と本を振り返ります。この年、日本では新紙幣が発行されました。1万円札は旧紙幣と同じく福澤諭吉、5千円札は新渡戸稲造から樋口一葉へ、千円札は夏目漱石から野口英世へと変更されました。この紙幣も2024年には新紙幣となることが今年発表されましたね。

この年のベストセラー(トーハン調べ)1位には『**ハリーポッターと不死鳥の騎士団**』が輝きました。また6位の『**蹴りたい背中**』(綿矢りさ || 著 河出書房新社)、15位の『**蛇にピアス**』(金原ひとみ || 著 集英社)は19歳(綿矢りさ)と20歳(金原ひとみ)が芥川賞をW受賞したことで話題になりました。5位となったアレックス・ロビラの『**Good Luck**』は朝日新聞の発表した「平成の30冊」にも選ばれた本です。

翌平成17年(2005年)は、1970年の大阪版爆以来となる国際博覧会「愛知万博」が行われました。6カ月におよぶ開催期間中には2,200万人を超える人が来場しています。この年の1位となったのは小論文対策の著書も多く持つ樋口裕一さんの『**頭がいい人、悪い人の話し方**』です。9位の『**問題な日本語**』(北原保雄 || 編 大修館書店)が入っており、言葉の使い方を見直すきっかけになる本が上位にきていると感じます。平成19年は第一次安倍内閣が発足した年で、安倍晋三首相の著書『**美しい国へ**』も17位にランクインしています。1位は日本人の心を鼓舞する『**国家の品格**』(藤原正彦 || 著 新潮社)。3位は様々な肩書を持つリリー・フランキーさんがお母さんとの日々を綴った自伝的長編小説『**東京タワー オカンとボクと、時々、オトン**』この作品は、ボク役をオダギリジョーさんが、オカン役を樹木希林さんが演じて映画化され、第31回日本アカデミー賞最優秀作品賞受賞も受賞しています。

963-ロ 『Good Luck』 アレックス・ロビラ / フェルナンド・トリアス・デ・ベス || 著 ポプラ社

64歳になったマックスはセントラルパークのベンチで偶然、子どもの頃の友人ジムと再会する。何十年ぶりに顔を合わせた二人だが、晴れやか人生を送るマックスの話を聞き、何もかも上手くいわずにいるジムは溝を感じてしまう。すると、マックスはジムに1つの物語を話し始めるのだ。

それは魔法のクローバーを探し求めるふたりの騎士の話。そこには運と幸運は同じではないのだということ、幸運は自分で導くことができるものだというメッセージが込められています。これを読んで、心に響く何かを見つけることができたらきっとそれが幸運を掴む一歩となることでしょう。

913.6-フ 『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』 リリー・フランキー || 著 扶桑社

多方面にわたって活躍するリリー・フランキーさんが自身のお母さんの供養のために書いたという本作。子どもの頃も、大人になってからも、一緒に暮らしていても、離れて暮らしていても、いい時も、悪い時も、変わることもない大きな愛でリリーさんを包んでくれたお母さん。どのページからお母さんの優しいぬくもりが感じられます。そのお母さんへ向けたリリーさんのたくさんの「ありがとう」と「ごめんね」と「大好き」の気持ちは涙なしには読めないし、読んだ後にはいつもは照れくさくて言えない言葉を素直な気持ちで家族に伝えたいくなります。